

令和5年度 第1回那覇市総合教育会議 議事録

署名人 安里恒男

市長 知念 寛

- 1 開催日時 令和5年(2023年)12月25日(月曜日)
午後1時15分から午後2時30分
- 2 開催場所 那覇市役所本庁舎5階 庁議室
- 3 出席者 知念 寛 市長
山城 良嗣 教育長
安里 恒男 教育委員
仲本 千佳子 教育委員
二木 志保 教育委員
山城 達彦 教育委員
- 4 協議事項 那覇市立小中学校における働き方改革について
- 5 出席職員 稲福 喜久二 生涯学習部長
名嘉原 安志 学校教育部長
安次嶺 博志 生涯学習部副部長
松原 伸一 学校教育課長
宮里 辰也 学校教育課副参事
備瀬 純子 学校教育課副参事
知念 潤 学校教育課主査
細田 聖子 学校教育課主査
仲村 海 学校教育課主任主事
平良 美夏 生涯学習部参事兼総務課長
稲森 恵子 総務課副参事
新里 隆司 総務課主査
- 6 事務局職員 堀川 恭俊 企画財務部長
山口 芳弘 企画財務部副部長
高良 鋭 企画財務部参事兼企画調整課長
儀間 一成 企画調整課副参事
前田 遼一 企画調整課主任主事
- 7 傍聴人 なし
- 8 議事の経過 次のとおり

令和5年度 第1回那覇市総合教育会議 議事録

○事務局

はいさい、それでは定刻となりましたので、これより令和5年度第1回那覇市総合教育会議を開催いたします。

知念市長、議事進行をゆたさるごとう、うにげーさびら。

○知念 覚 那覇市長

はいさい、ぐすーようちゅーがなびら。

本日は令和5年度第1回的那覇市総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本会議は、市長と教育委員会の協議及び調整の場という位置付けになっております。

ここで言う協議は、自由な意見交換として幅広く行えるものでありますので、皆様とともに、教育に関する方向性などについて、意見交換を行い、本市の教育行政の推進に努めて参りたいと思っておりますので、忌憚のないご意見等よろしくお願い申し上げます。

それでは会議開催の前に会議録署名人の指名をいたします。

今回は安里恒男委員にお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは協議事項1、那覇市立小中学校における働き方改革について、に関し協議を進めて参ります。

初めに教育委員会学校教育課より説明をお願いします。

よろしくお願いいたします。

○学校教育課

学校教育課です。

よろしくお願いいたします。

お手元にお配りしております、令和5年度第1回総合教育会議資料、那覇市立小中学校における働き方改革について、この1ページをご覧ください。

教員負担軽減タスクフォースの取り組みを進める上で、教員の実態把握及び負担軽減に向けた検討を進める基礎資料とするため、本年7月に、那覇市立小中学校に勤務する教員を対象に、教員の負担軽減に向けたアンケートとして実施いたしました。

アンケートの設問項目としましては、選択式が15問、記述式が7問の計22問を設定し、ウェブ形式にてアンケートを実施いたしました。

その結果、調査対象である教員約1600名のうち、およそ63%にあたる、小学校から684名、中学校から343名、合計1027名の先生方からの回答をいただきました。

本日は、本アンケートの抜粋版にてご説明をいたします。

初めに、設問5の、一月当たりの時間外勤務の項目では、約半数の教員が45時間以上80時間未満と回答しておりますが、80時間以上と回答した方が、小学校では約10%、中学校では約20%となっております。

次に、設問7の仕事に関する考えの項目では、仕事にやりがいを感じているという問いに対して、当てはまる、やや当てはまるを選択した割合が、小中学校ともに約90%近くとなっておりますが、一方では、仕事量が多い方である、という問いに対して、当てはまる、やや当てはまるを選択した割合は、90%を超える結果となっております。

次に2ページをご覧ください。

教員負担軽減のアンケートを行う中で、先生方が関わる業務を、大きく五つの項目に分け、設問項目として設定しました。

授業や指導、学校運営、保護者・地域等への対応、行政への対応、学校外のイベント・行事等の5項目となります。

設問8では、これらの五つの項目に関する負担感について、負担に感じている、やや負担に感じているなどの4択で回答をいただき、さらに、この五つの項目の中で、負担に感じている具体的な内容を、複数選択式にて回答をいただいた上位2点をまとめた表が、この2ページ下段の表となります。

このうち、学校外に関するものとしては、表の下2点となりますが、行政への対応に関しましては、小学校中学校ともに、調査依頼や作品募集、配布・周知依頼が多く選択され、また、学校外のイベント・行事等に関しましては、夜間街頭指導や旗頭フェスタ、那覇ハーリーが多く選択される結果となり

ました。

また、設問 19 につきましては、これまでに出席したことがある会議・研修会等の負担と感じた上位 2 点、設問 21 につきましては、拡充が必要と思う、学校と関わる支援員について、の上位 2 点の選択結果となっております。

アンケート回答から、成績処理や支援員の増員の要望、行事、イベントなど、那覇市として対応すべき内容と、校務分掌の割り振りや校内研修の持ち方などの、学校内での検討を要するものなど、様々なご意見がありました。

これまでに取り組んだ主な内容としましては、本市立中学校への採点システム導入事業や、特別支援教育補助員、スクールサポートスタッフの拡充に要する経費の増額、次年度以降の春休み期間の拡充に関する規則改正などがございます。

その他、市長事務部局を含めた関連課におきましても、負担軽減に向けた対応策の検討を進めているところでございます。

学校教育課からの説明は以上となります。

どうぞよろしくお願いいたします。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございました。

ただいまの説明を受けてご意見等、またさらに詳細な資料もおそらくお持ちですから、そのあたりの資料ございますか、というご質問でもよろしいです。

ご意見がありましたら、挙手にてお願いいたします。

○仲本 千佳子 委員

この資料から読み取れるように、先生方、かなり仕事にやりがいを感じてらっしゃるけれど、負担もかなり大きいというふうに、感じてらっしゃる様子が、とてもアンケートから読み取れるかな、と思っております。

その中で、本来業務である、授業の指導や学校運営ってところの負担感っていうのは、本来業務なので、業務の効率化っていうところで対応していかないといけないと思うんですが、それ以外の行政の対応や学校外のイベント行事に関しては、校内の業務の効率化だけでは、なかなかやはり先生方だけでは、取り組めないことですので、この辺をやはり地域と、また行政の方と、学校の方の負担軽減をみんな考えていかないといけないのかなと思っております。

特に私の方から述べたいのは、私、PTA 活動を何年かしてきたんですけど、旗頭フェスタとか那覇ハーリーっていうのは、那覇市の方が、市の全体として、子供たちに、那覇市で育つ子供たちの望ましい像として、地域の、やはり文化に触れるイベントをしっかりと学校の方で取り組んでいきたいということから始まったと、私は認識してまして、かなり学校の方でも、旗頭フェスタを、できれば那覇全校参加できるようにっていう形で、市 P（那覇市 P T A 連合会）の方からも、保護者に協力依頼が来ているところです。

学校の方もそれに応えて、かなり先生方に頑張ってもらっていて、もちろん保護者もかなり協力はしてるんですけど、やはり学校の方が中心になって行われている行事でもありますので、その辺は、地域の旗頭保存会なども地域地域にありますし、またハーリーの方も、保存委員会がありますので、うまい形で、地域の方に、学校からおろしていけるといいな、とは思っています。

ただやはり今は、今現在としては、学校の先生方が、子供たちに声掛けをして、練習に取り組ませるっていうような現状があるので、地域の方でこれをどうやって支えていけるのかというのが、地域地域で話し合っていないといけないものなのかな、と思っております。

那覇市としては、やはり子供にそうやって、地域の伝統行事に関わる場を積極的に持っていくっていうのは、やはりその通りなのかなと。

今後もそのつもりでいらっしゃるのかなと思っはいるのですが、その辺市長はどのようにお考えですか。

○知念 覚 那覇市長

仲本委員がおっしゃる通りで、地域への愛情とか、それから、特に那覇っていうのは大都市ですから、その辺で、地域力が年々低下してるということもございます。

その一つのツールとして、この二つの行事、特に今まで伝統的に脈々と受け継がれてきたものを、この部分は、今後も継続していきたいという考えを持っています。

ここで、小学校中学校とも、各々、この地域行事に対する負担感が 2 位になってます。

実態として、一体年間どれぐらいどういう作業があって、どれぐらいの労力が、各学校を均一なのか、それとも違ったような時間配分になってるのかという、ここの冷静なエビデンスに基づく削減策を打っていかないと、私としてはいつも総論的なものと、物事が語られて、実際のどの時間に、どうすれば、これが負担軽減になっていくのかっていうのがないまま、ずっときてるような印象です。

実際今やってることと、それから、今後ここに手を入れていけば、減っていくんじゃないかとか。地域は何をすればいいのか。

それで、学校で実際の程度の、何々小学校でどれぐらいの時間が割かれてる、でもここは10時間だけでも、ここは1時間とか、こういう大きな差があるのかどうか。

このあたりの実態をまず伺った後に、今日のメンバーで、いろんな対策がとられたらいいのかなと思いますので、まずターゲットを絞りましょうね。

今日は、今の議題はこの地域行事の対応と、先生方の負担感、

この部分についての現状の分析状況を、やってないならやってないでもいいと思うんです。

それをちょっとお聞かせいただけたらと思うんですが、いかがなんでしょう。

○学校教育課

今市長からもありましたが、実際に具体的に、どの学校でどれぐらいの時間を、例えばハーリーとか、それから旗頭に向けて、練習時間とか、使ってるかという具体的な時間の洗い出しというのは、できてはおりません。

ただ、例えば旗頭にしても、小学校中学校それぞれなんですけれども、教員が、その地域の方の協力もいただきながら、実際やってる状況ではありまして、このハーリーにしても、本番に向けての練習を、放課後プールを使ってやったりとか、そして実際に休みの日に1度は出ていって、放課後ですかね、すいません、ちょっとそのあたりは。

実際には、海で1回は試漕するというか、そういった練習をやってる現状はあります。

今回出たアンケートの中で、やはり、那覇ハーリー、それから旗頭に関しては、かなりの負担感があるという状況が出ておりますので、今市長からもあったように、具体的に、学校単位で、どれぐらいの時間を要してるとか、そういったところはこれから、調査していく必要があるかなと思うんですが、全体的に見て、各学校の負担感大きいのは、実際もう出てる通りです。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございます。

どうぞ、安里委員。

○安里 恒男 委員

今話題になってます、負担っていうところなんですけれども、私は学校現場にいましたので、その辺のところで確かに、負担になっているのは事実だと思います。

ただ学校現場にいた者として、例えば、夜間街頭指導、私が学校長の時には、そこはある面、本当にボランティアで、地域の子供たちのために、熱心に取り組んでいる関係者の皆様に、ひとつ状況などをしっかり把握する場でもありましたし、また逆に日頃、地域の子供たちの見守りに関して、もう感謝の気持ちを伝える場でもありましたので、学校の運営を進めていく上では、そういった夜間街頭指導の集まる場っていうのは、すごく重要だったなっていう印象がございます。

それから、旗頭フェスティバルなんですけども、この2、3年、コロナ禍で、なかなか厳しい状況で開催できなかったっていうのが一つ事実でございます。

各学校で、校長先生方とお話をする中で、学校の状況にもよるとは思うんです。

学校長の学校の経営方針っていうものは、しっかり受けとめていかなければいけないのかなと思います。

ですから、学校長の経営方針の中に、地域の文化、例えばこの地区で生まれ育った子供たちは、またその地域に戻っていくっていう視点からいくと、これまでは、そういう旗頭フェスティバルもなかなかうまく参加できない部分があったんですけども、もう1回見直して、参加して、そこでまた効果を上げていくっていうのもあるのかなと思いました。

また私自身も、少し、親御さんと、なかなか上手く折り合いがつかなかった事例の時に、そのお子さんが、実際にその旗頭フェスティバルに参加をして、そこの子供たちの成長を見ることによって、親御さんとの、保護者との関係も少し、改善されるっていう場面も、実際ありました。

それから、那覇ハーリーにつきましては、私小学校ですので、つまり、出身の子供たちが中学校で、どんな感じで活躍してるのかなっていう、見る場面でもありましたので、確かに負担軽減ということ

で、負担過重になってるのは事実だと思います。

それとあわせて、そういった子供たちの健やかな成長のために、一つ、ある面ではまた、そういう効果もある場面もあるのではないかなっていうふうに、印象を受けてます。

以上です。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございます。

今意見あったように、学校長の経営方針とか、いろいろあろうかと思うんですけども、学校ごとに冷静な分析をして欲しいです。

それと、この負担感という数字の中には、実は時間は少ないんだけど、精神的な負担があって、一年中これが頭から離れなくて、負担になってますという事例も、結構あると思うんです。

その辺りをやって、負担感をどうやって軽減していくかっていうのを、今回のタスクフォースの中で、しっかり分析、改善、それから実行みたいな形でやるような方向で、私自身は進めて欲しいなと思ってるんですけど、これは可能なんでしょうか。

今の進み具合がよくわからなくて。

まあいいでしょう。

お答えできないならいいですけども、とりあえずこういうのは、私行政やってよくわかるんですけども、冷静になって分析してやっていかないといけない。

特にここの部分はウルトラCが実はないんです。

小さなものを少しずつ丁寧に解決してかないと、なかなかこれ成果として現れてきません。

これやっても駄目だったんじゃないかと、これやって実際1%どっかが負担軽減してると、気持ちを持つ人が出てくるんです。

ですからもう、100項目ぐらい、粘り強くやっていかないと、こういうのは解決できません。

それで、こういう話し合いが行われてるという自体も、しっかり現場に伝えて、ちゃんと考えてくれるんだなという、この情報の伝わり方が、どういうものなのかっていうのも、それと今協議をやる中で、ここまで改善策を話してますよ、という情報を、現場の先生方に伝えていかないと、なかなか、やってくれてるといって、見守られ感みたいなものが、ないと思うんですね。

そこも含めて、今回市長部局と一緒にやって欲しいなと、私自身は思ってます。

これは私の、今日は意見ということで、とらえてもらって結構なんですけども、今の学校の現場の関係者の皆さん、それから仲本委員もありました。

それから他に、じゃあ二木さん、はい、よろしくをお願いします。

○二木 志保 委員二木と申します。

伝統行事なので、昔ながらのものを復活させて、それをまた、次の世代に繋いでいきたいという気持ちでやっていると思いますけれども、町の形というか、少子化などが、変わってきてます。

それで学校の規模も変わってきているという状況で、そのままでは難しいということが、多分生じてきてるんじゃないかなと、思っているわけなんですけど、その辺の分析もお願いしたいんですけども。

例えば部活動も今、一つの学校で維持していくのが難しい、或いは先生の負担が大き過ぎるということで、見直しを地域と一緒にやりましょうと、地域移行しましょうっていう気運というか、上からのお達しもあって、やっていくことになってるので、その地域のお祭りごと、旗頭フェスタ、ハーリーなども、やはり変わっていかざるをえないのではないかと。

私は、最近テレビでしか、このお祭り見てないんですけど、学校ごとに旗を振ったり、ハーリーを漕いだりして、勝ち負けを競うというやり方が少し、やはり無理があるかなと。

大きな、もうちょっと大きな括りでやる方が多分やりやすいんじゃないかと。

指導者も集まりやすかったりとか、その祭りの持ち方を少し検討していくっていうことも必要じゃないかなと。

思ってます。

地域の方で、保存会などで一生懸命やってらっしゃる方も、ご自分がその協議に参加するのでは、なかなかその子供たちの指導にまでは本腰を入れられないっていうこともあったりするんじゃないかと思うので、どういう役割分担を、地域の方お願いしていくかっていうことも大事なかなと思っております。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございます。

確かにこれは、私もそうだなと思ったのが、規模ですね、学校の。
あれだけの人数を、どんどん縮小していく学校の規模の中で維持していくのは、本当に難しい。
いわゆる三校で一つとか、そういうような意味合いでとらえてよろしいのでしょうか。
ありがとうございます。

なるほど。
山城委員も何かございますか。

○山城 達彦 委員

先ほど市長がお話した、具体的にどんな負担してるのか、何時間やってるのか、学校別にどうなのかっていうのは、調査が必要だと思いますね。

この辺を把握した上で、議論するということが必要かと思います。

あと旗頭も、ハーリーも、季節的な、シーズンのものなんで、その時期ということなのかなというふうに思っています。

いずれにしろ、アンケートの結果、負担が出てるといことですので、きっちり調査していただきたいと思います。

あとこの夜間街頭指導で、私、高校の同級生で、模合してまして、この模合のメンバー、中心的なメンバー1人が、松川小学校区、真和志中校区で、第三金曜日に街頭指導があるということで、模合の日を第三から第二に移したというのがありまして、月1だったと思います。

この保護者の立場として、彼の話では、そのあと飲み会もするとか言ってましたんで、名称が親父の会と言ってました。

あまり先生方は多くは参加してないんじゃないかなというふうな感じを受けました。

わかりません。

実態わかりません。

ここも現に負担になってるっていうアンケート結果出てますので、ここも調査が必要じゃないかなと思います。

メンバー変えて毎週金曜日やってたかもしれませんけど、私の友人は第三金曜日にやってるといふふうに聞いてます。

調査をお願いしたいと思います。

以上です。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございました。

これ調査というのなかなかね、時間を要すると思うんですけども、先ほど言ったような。

でも、やはりこの実態を把握しないと、前には進めませんので、これはサンプリングした調査になるのか、それとも各学校しっかり実態をとらえるのか。

この辺りはまた、業務を進めていく中で、私も一緒に考えさせていただきたいと思いますので、ぜひ、実態をまず解明して、各教育委員の皆さんにもお知らせしながら、一緒にまた対応策を考えていければと思いますので、よろしくお願いします。

今の地域行事とか、夜間街頭指導に関するものが大体出揃ったと思うんですけども、教育長もありますか。

はい、どうぞ。

○山城 良嗣 教育長

旗頭にしても那覇ハーリーにしても、私は現場で直接関わっていて、特に旗頭に関しては、立ち上げから、地域の青年たちと一緒にやってきた関係上、僕自身は、個人的にはすごく愛着があります。

やはり地域の人と一緒にやっていけるというのは、すごく意味のあることだし、そういう意味では、すごい、僕自身は、大切だなと思ってる行事の一つであります。

これに、先ほどから市長がおっしゃってるように、どの程度、時間や労力を割いているのかということについては、学校毎で、全然取り組み方が違うんだろうなと思っています。

この旗頭に関しては、基本的には、多くの職員が関わるということではないかなと思っていますね。

実際私がいた学校では、僕は教頭時代に、僕1人で関わったこともあれば、校長になってからは、担当を置いて、この担当が、地域との調整をしながらといったところで考えたときに、人手的にはそれほど、僕のいた学校では、かかっていなかったなという印象はあります。

あわせて、この地域の青年たちというのは、この旗頭をとおして僕も知り合って、すごい学校に協力

をしてもらえました。

例えば、生徒指導関係で、学校が困っていたら、地域の青年呼んできて、一緒に、ちょっとこの子と関係をつくれないかというふうな形で、協力いただいたり、卒業式、今年は大荒れになりそうだといったときには、地域の青年たちを、あえて卒業式に呼んで、旗をあげさせると。

そこで、ずっとこの時間帯一緒にいてもらうであったり、ということ。

この地域との関係性をうまく作り上げたがゆえに、すごい、学校にとってはプラスになった側面もありました。

ですから、学校長、或いはこの学校、或いはこの地域が、この行事をどのように位置づけるかによって、全然、この先生方のとらえ方だったり、いろいろなものが変わってくるのかなというふうに思っています。

ただ、実際これだけ先生方の声が上がってる以上は、おそらく、立ち上げのころとは、随分意味合いが少し違ってきているのかもしれないなというのは、感じるところです。

それに対して、那覇ハーリーは、かなり人手がかかります。

しかも、時間も、時間もというか、新年度4月始まってすぐに、放課後ではなくて、早朝練習が多分主になっていると思います。

朝7時過ぎから、例えば三学年の先生方みんな学校のプールに集まって、子供たちも呼んでという風なことからスタートして、約一月近くかけてのレースになるものですから、この負担というのは、学年全体、或いはそれを飛び越して、さらに多くの先生方が関わるという意味では、大きなものかなと思っています。

ただ、これもあえて別な側面を言うと、今年的那覇ハーリーの日に、僕も会場にいて、最後のレースまで見ていたんですが、やはりこの勝った子供たちの表情だとか、ああいうのを見てると、何と言うか、テレビのインタビューでも子供が言ってたんですが、自分の子供にも経験させたい、中学生が、それだけ自分は感動した、自分の子供にもこれ経験させたい、というぐらいの、何かやはり、そんなのを、子供たちにもたらす行事なんだろうなというのは、感じたりします。

ですから、子供目線で言えば、このハーリーというのも、すごい、なくしてはならないものだろうなというのは改めて感じます。

じゃあ、そんなこと言ったら、負担軽減なかなか図ることができないとなるんですが、そのやはりヒントは、一つは先ほど二木委員からもあったように、場合によっては、学校単位といったところを少し見直すというのは、大きなヒントになるのかなとは思っています。

本当に、一つの地域に、広範囲に子供たちに呼びかけて、学校ではなくて、地域での参加ということになったときには、この子供の気持ちにも沿う形で、ある程度また改善が図れるかもしれないというのは、感じているところです。

あと夜間街頭指導に関しては、これもいろいろあるんですが、これも何ですかね、関係する団体と、このあと少し、お互いの思っていることを意見交換して、今後の方向性を定めていく必要があるかなと、個人的には思っているところです。

以上です。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございました。

どうぞ安里委員。

○安里 恒男 委員

ちょっとだけ視点を少し変えますけれども、先ほどアンケートの説明の中で、仕事にやりがいを感じてるっていう先生方は、90%はあるということをお聞きしました。

だから私自身も、一番大事なことは、教職員が生き生きと、生き生きと働ける職場づくりっていうのが、すごく重要ではないのかなと考えております。

二つ目は、小学校中学校の教職員の一人一人が、やりがいと誇りを持つ、そういった気持ちがあるのと、すごく重要ではないのかな、これは教職員のメンタルヘルスにも関わっていくと思います。

その中で、そういう負担が和らぐ要因、少しでも、ゼロにはなりませんので、和ぐ要因としては、やはり管理職のサポート、アドバイス、或いは同僚のサポート、或いは協働性の高い学校組織文化をどう作っていくのかと、最も大事なものは地域、或いは家族友人などの学校外の人的サポートっていうのが、すごく重要になってくるのではないのかなって思っています。

ですので、そういった視点で取り組んでいくっていうのも、一つ方法ではないのかなって思っています。

す。

ですから、すべてをゼロにするのは難しいんですけど、要は何が言いたいかというところ、その先生方お一人お一人が、やりがいを感じてるっていうのを、もっと分析的に、どういったところでやりがいを感じてるのかっていうところを、やはりもっと具体的に、考察をしていく必要があるんじゃないのかな、そこら辺から一つ、糸口が見えてくるんじゃないのかなと思ってます。

以上です。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございます。

今のご意見の中では、大体このクエスチョン8、ここの部分で、負担感というものの配分があります。

大体30から40%の間で、どの項目も負担ですよ、みたいな結果が出てます。

ただ、負担ということの中には、先ほど言ったように、時間的な負担なのか、精神的な負担なのか、ここが程度二極化するのかなと思ってますので、まずできることは、ここの部分に対する時間配分がどうなってるかというのが、なかなか見えてこない。

私あたりは、個人的には、いろんな同級生も、先生方がいますから、聞いててやっぱここなのかなと思ってるのは、保護者対応です。

そこは精神的なものや時間的なもの両方とられ、もう家に帰ってもこれに支配されてるような部分があるなど、いうふうに感じています。

ですから、まず時間配分の部分については、しっかりデータを分析しながらやっていただきたいというのがございまして、その中で、今回は学校外のイベントについては、今話した通りの問題点があって、こういうものでいけるんじゃないかというご提言もいただきましたので、これをまず参考にしていただいて、チャレンジしてみるというのをお願いしたいと思います。

それと次ですけれども、この学校運営について、今度議題にしていきたいんですけども、この学校運営も、結構負担感があると、小学校なんか42.7%ぐらい、やや負担に感じてるのが出てきてます。その中で校務分掌とか、我々の方で、行政の方でできることといいますか、それから実際やったこととか、そういうのを少し参考までに、みんなの意思統一しながら、話を詰めていきたいと思えます。

今までやったことって大体わかりますか。

○学校教育課

学校運営の中で、校務分掌が非常に、第一位、小中ともに一位ということで出ています。

これに対して、こちらでこのアンケート取った中で、例えば、この校務分掌の質的なものとか、量的なものとか、この校務分掌を割り当てられたその分掌によっても、それぞれ違いがありますので、例えば、大規模な学校ですと、子供たちが、数多くて、その分、教職員数も多いので、1人一つの分掌が与えられるので、大体均一になるのかなというところもあるんですが、その中でもやはり、例えば教務主任であるとか、校内研究主任とか、学校全体を動かしていくといった、そういった主任になった場合には、やはり、他の人と比較すると、重いなど感じる部分もあるのかなと。

また学校規模で、小規模校になると、1人の職員で、複数の、三つも四つも分掌を兼ねないといけないという状況が出てきますので、そういった意味での負担、あれもこれもやらないといけないっていった、そういった状況もあるのかなと、いうのを感じています。

その校務分掌については、学校の方で、校長の方が決めていきますので、そういった中で、与えられた分掌をやるわけですけれども、それぞれが、今持っている自分の分掌で、やはり、これは重いなど感じている部分、そういったところからの結果なのかなというのを感じております。

○知念 覚 那覇市長

すいません、私も現場がわからないもんですから、これは年間、かなりの分掌が来て、教職員にあなたじゃこれね、これねっていう形で、配分されるんですか、学校長権限で。

去年やったものと違うのが今年割り当てられ、これって、効率化という意味では、どんなもんなんだろうね。

どうぞ、もう現場をよく知ってる安里委員。

○安里 恒男 委員

これ一つ、スムーズな学校運営を進めていく上で、適材適所に、先生方お一人お一人の校務分掌を割り当てていくのは、すごく重要なことだと思います。

それで、ご承知の通り、学校っていうのは、初任者もいれば、5年目の方もいれば、或いは中堅組、

或いはもうベテラン組もいます。

ですから、そういったキャリアステージが違う教職員が一つになって、学校運営してますので、もし負担感があるというのであれば、校務分掌の適材適所の部分で、もう少し、調整をしていくというのがあるのかなと思ってます。

で、この校務分掌っていうのは、例えば研究主任、これは結構花形というか、それから僕は男子でしたので、体育主任になりたいとか、それから、いずれは学年主任にもなりたいとか、今非常に厳しい状況であるんですけど、生徒指導主任になって、そういった生徒指導に関するものをクリアしていきたい。

ですから逆に言うと、そういったのを経験して、次のステップを踏んでいくっていう。

だから、子供たちには、よく学校経営の中で、自己肯定感をどう高めるのかって言う視点があると思うんですけど、まさしくこれは、教職員の協働体制、チーム学校でやっていく上では、教職員の自己肯定感を高めるためにも、そういった校務分掌を適材適所にはめていくっていうのが、一つ、重要なポイントになってるのではないのかなと。

ですからこの辺も、何をもって、校務分掌の負担なのかっていうのを解き明かしていくことも、また一方では重要ではないのかなと思います。

以上です。

○知念 覚 那覇市長

まだいまいち捉え切れないのがあるんですけど、これはやれば人材が育っていくんですか。教育長。

中身がよく、私もわからないもんで。

○山城 良嗣 教育長

実際、学校の仕事は、責任持って、担当させて、初めて、なんて言うんですか、本人も成長に繋がるというのは、往々にしてあります。

ですから、やはり将来的に、教頭校長になっていくためのステップとして、学年主任であったり、生徒指導主任であったり、研究主任であったりっていうのは、やはりクリアしていった方々が、最終的には教頭先生だったり、校長先生に落ち着くというのが現状でしょうか。

○知念 覚 那覇市長

これを、負担軽減を少なくしようと思ったら、何か手だてがあるんですか。

○山城 良嗣 教育長

休憩お願いします。

○知念 覚 那覇市長

実態はよくわかりましたので、再開します。

校務については、なかなか市長部局の方と、中身について、教育委員会の方で、しっかり、これを合理的にできるのか、果たして今のこの校務自体の、こんな必要なのかどうかっていうのを含めて、詳細な検討をして、対応していければと思いますので、よろしくお願いします。

次に、一番私が興味示してるのは、保護者のへの対応。

ここが一番難しいところで、この保護者の相談といいますか、小学校も中学校も、一位になってます。

率からしても、37%ぐらいです。

負担とやや負担も、これが80%ぐらいいってますけども、この辺りについて、解決策というのがあるのかどうかっていう、ご提言とかご意見あれば教えていただきたいと思えますけど。

安里委員からいきますか、はい、どうぞ。

○安里 恒男 委員

私も学校長を何か年かさしてもらいましたけども、突然、校長先生いますか、みたいな感じで電話が来て、相談したいんだ、で、どういった要件ですかって言ったら、会ってから話します、みたいなことがございます。

でも、これは一つこういったものを積み重ねていながら、何回か、そういう学校に対しての不信感がある場合は、その不信感を取り除いていく努力をしていくことが、重要ではないのかと思います。

つまりこの不信感っていうのは何なのかというと、今学校でどんなことが行われてるのかというのを、あまりそういう保護者の方が、ご理解いただけてない時には、いきなり学校を飛び出して、教育委員会の方へ、これはどうなってますかっていうこともあるので、そういった時には、できるだけ、学校

だよりとか、或いはその先生方の保護者会などで、今学校こんなことしてますよっていう、子供たち今こんなことやってますっていうのを、できるだけ、保護者の皆様のご理解いただけるように、情報提供をしっかりとやっていくと。

もし何かございましたら、学校の方にご連絡いただけませんか。

目の前の子供たちのために、力を合わせていきたいというメッセージを送っていくっていうことが、一つ基本になってくるのかなと思います。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございました。

おそらく各学校で安里委員がおっしゃられたようなことを、やってるところと、やってないところがあるんじゃないかと思うんですけども、僕個人的には、実態としてやってるところとやってないところってあるんですか。

○学校教育課

各学校それぞれ、やはり校長であれば、学校だよりとかを通して、それから学年であれば学年だより、学級であれば学級だより等を通してながら、学校でこういうふうな今取り組んでますよとか、子供たちの様子を保護者の皆さんに伝えるとか、或いはホームページを活用して、どの学校もやってはいると思います。

積極的にそれを保護者にやってるかどうかということにかかってくるかなとは思いますが、ほぼほぼ、やっているかと思います。

○知念 覚 那覇市長

なるほど。

私が知りたかったのは、やってるところとやってないところ、いわゆる PTA の保護者の皆さんが学校に来られ、いろんな相談をしたいという件数の差に表れてくるのかどうかっていうのが、聞きたかった。

ある方から話を聞いたら、やったら 4 月にはすごい問い合わせがくるけども、わかってもらえやすいという、わかってもらえたら、5 月から極端に減って、一年間平穏無事に過ごせるんだ、というような意味合いのことをおっしゃっていた方もいます。

ですから、やり方の温度差っていいですか、内容をどこまで詳細に伝えるかという、これやったらここまで減りましたよって、これもある程度の事例を、学校長の皆さんに伝えないと、なかなか解決しない話なのかなと思います。

それはそれで全体的な、保護者が学校に相談に来られる件数が減るということはあると思うんですけども。

そういう方々に対して、どこまで解決策を提示していくか、今弁護士の話も、スクールロイヤーの話もあるみたいですけども、ここも現場も勘違いしてるところがあるというので、その使い方とか、今の程度、先生方がそこに期待しているのかとか、この辺りの情報をもう一度、教えていただいたら助かるんですけど、何か今あります。

○学校教育課

学校からすると、これは校長会からの要望等もありまして、やはり保護者の対応に、本当に苦慮している状況があるということで、やはり、そこをどこまで学校が対応していけばいいのかっていうところで、このスクールロイヤーの導入を、ぜひお願いしたいという要望は、以前からありました。

今年度もそういうのが出てきていて、委員会としても、次年度に向けて、そういう方向で動いてるところではあるんですけども。

学校からすると、このスクールロイヤーが、もしも導入されたら、学校が今対応してる保護者対応を、このスクールロイヤーに任せられる、というような意識なのかと。

でも、そうではなくて、対応するのは学校ではあるんだけど、その法的な立場で、このスクールロイヤーというのが、児童生徒、子供の最善の利益ということで、学校からすると、子供たちはもう学校にいる、でもその保護者が訴えてきているということで、なかなか切り離すことができないところがありますので、そういったところでどのようにしたら、この子供たちにとって、いい方向で、できるのかっていったところを、このスクールロイヤーに相談することによって、こういった対応の仕方ですっていいという形で、あくまでも対応していくのは学校の方なんですけども、そのアドバイスをいただくという立場になるのかなと。

だから今、学校としたら、この悩んでいる対応の仕方を、学校ではなくて、このスクールロイヤーが

そこに入ってやるという意識だと思っんですけども、そこがちょっと違うのかなというのは、今後、説明は必要なのかなと感じております。

○知念 覚 那覇市長

はい、どうぞ。

安里委員。

○安里 恒男 委員

大事なことは、例えば、学校の方では、月毎、年間通して、何回か、学校評価、保護者向けのアンケートをとっております。

その中で、やはり数値が低い、或いは備考欄に学校に対しての要望欄もございますので、それをしっかり受けとめてやっていくというのがあると思います。

個人的に、学校に、私も経験ありましたけども、いらっしゃるのは、要は、子供との関係で、うちの子供がこうなってるってところが非常に、学校に突然来て、どうなってるんだってくるので、これは予防としては、初期対応。

ですから、各学級の学級担任の先生に、とりあえず学級経営の充実、とりたてて何か子供同士のトラブルがあったときには、しっかり自分だけで解決することもあるかもしれないけど、その件は、必ず学年主任にも情報は流してということで、チームで対応していくということでもありますので、やはり一番は、初期対応がうまくいかなかったときに、あれほど言ったのにまだ改正されてないということになるので、それが結構ポイントなのかなと思ってます。

○知念 覚 那覇市長

他にどうぞ。

仲本委員。

○仲本 千佳子 委員

今、多分4時45分からかな、学校電話が留守電に変わるようになって、もう業務外ってということで、これが行われるようになってから、放課後ってというのは、学校ではなくて、地域が責任を、保護者及び地域が子供たちの責任を持たないといけないんだなっていうのが、何となくPTAの方も、そういう意識に変わってきてはいます。

ただ、やはり昔の先生方がかなり頑張ってたので、子供が、放課後何かやんちゃなことをすると、学校の先生も一緒に呼び出されて、保護者と一緒になっていうことが、私たちの保護者の中にまだ、意識があって。

それで、学校内のことはもちろん学校が責任を持っていただけると思ってるんですが、学校外で起こったトラブルも、何で学校の先生が対応してくれないんだろうっていうような意識が、まだある保護者がいらっしゃって、だからやはりこの辺の責任が、学校の責任が、どこからどこまでなのかっていうことを、地域に理解していただくっていうことも大事だと思うんですよ。

これは、この責任、子供たちの責任をどこに置くかっていうのが、要するに、さっきの夜間街頭、ハーリーや那覇フェスタもそうなんですけど、地域移行していく、部活もそうなんですけれど、何かあったときに、じゃあ誰が責任取るのかっていうことに、じゃあ私責任取りますから子供たちお世話しますよっていう方が、そこまでが、踏み込んでくれる組織とか地域の方は、なかなか探せない。

それでやはり学校が、そこはやってくれないかなっていうところがあって、保護者としても、学校に何とかしてもらいたいっていうところが出てくる。

ただやはりもう、何でもかんでも全部学校が、全部責任を持つっていうのはなかなかやはり難しいので、ここからここまでが学校の責任ですよ、ここからは地域が頑張りたいっていうのを、もうちょっとこう、そういう認識を、地域の中に醸成していかないと、全部学校に持っていかれるのかなということと、安里委員がおっしゃったように、突然来る保護者っていうのは、保護者の方から見ると、保護者同士の繋がりが少ない保護者が多い印象です。

繋がりが合ってる保護者は、必ず他の保護者に聞きます。

でも先生はこんな対応もしてくれたよ、まだちょっと伝わってないんじゃないの、こういうふうに伝えてみたらっていう形で、保護者間で解決する時もあるんですけど、この繋がりがやはり薄い保護者だと、保護者の中からも突然、あの人こんなこと学校に訴えてるんだっていう、ちょっとびっくりするようなこともあったりもして、PTAの活動で、かなり多分先生たちもご負担に思ってるところもあると思うんですけど、PTAでこうやって保護者が繋がりが合って、学校がこういう雰囲気頑張ってくれてるっていうのを伝え合うっていうのも、すごくPTAの大きな役割ではあると、私は思ってます。

なので、やはり学校が、こういうふうに頑張ってるんだっていうのを、学校の側も、上手に発信しないといけないと思うんですけど、保護者も、やはり連携をとって、学校を支えていくっていうところをしないと、やはりもう、個人個人で来てしまうかなとは、感じています。

○知念 覚 那覇市長

なるほどねと思います。

いわゆるPTAが、間接的に、弁護人になってる力もあるわけですね。

確かそうでした。

私も経験あります。

それを親同士で伝え合ってるというのが、だから冷静に抗議をしたい親も、冷静になって、じゃもう今回行くのやめようかというのは、結構ありましたね。

確かにね。

わかりました。

どうぞ、二木委員。

○二木 志保 委員

その保護者への対応というのを、ネガティブな面をとらえると、モンスターであるとか、クレームです。

弁護士にお願いしなきゃならないんじゃないかとか、そういう揉め事っていうふうにとらえるんですが、普段、保護者を中心に面接しながら、子供を見ているっていうような私の診療のスタイルからすると、保護者に対して私がどういう助言をしているかということ、学校の先生とよく話し合っただけで、というような、自分が責任を逃れたいような、まるで、この辺は学校の先生とよく話し合っていないと駄目だよっていう助言です。

それで、それが先生にとって負担になってるとしたら、大変申し訳ないと思いつつ、やはり相談とか、学校内で解決しなきゃいけないことっていうのは、別にクレームとか、そういうネガティブなことに限らず、建設的に、その子をどういうふうに支えていくとか、育てていくかっていう、保護者との教育、学校の先生との話し合っただけというのが、やはり土台になればいけないんじゃないかという、ポジティブなとらえ方を、私はむしろして欲しいという立場なんです。

でも負担になるようだったら、それを少しでも他の業種、福祉であるとか、心理であるとか、医療も含めて、先生方を含めて、その先生方にも、支えが必要なんだろうなということ、今後考えていかなきゃいけないんだろうなと思います。

相談っていうのは、大事なことなんだろうなというとらえ方を基本的にしてるものとして、ちょっと今までの流れとはちょっと違うこと、話してみました。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございました。

すいません、休憩が長く時間を食ってしまっているところあるんですけども。

本音でいろんなことが話し合えて、よかったかなと思ってます。

あと市長部局ができること、それから今教育委員会で頑張りたいこと、保護者からのものについては、体制の構築というのも、おそらく今後必要になってくるかなと思います。

その時はタグを組んで、こうしたいんだけどって言えば私もそれなりにね、しっかり対応していきたいと思います。

今回ちょっと触れられなかったところもあるんですけども、ここの部分が、今後の対応の中で、作品の依頼とか、校内研修のやり方、徴収金なんかについては、まさしく行政が、もうこんなPTA会費なんかいらぬんじゃないの、という時代に突入してくると思いますので、それはまた私は私なりにしっかり対応させていただきたいと思います。

あと1人だけ、どうぞ。

○二木 志保 委員

先ほどの保護者対応から、メンタル不調に陥ったりしたら大変まずいので、先生を支えるためのシステムというか、人が必要ということをお話ししなきゃいけないなと思って、教育委員会の部局どこかに、保健師さんが活用されるということを知っていますんで、大変重要な役割を果たしてくれるものと期待しているんですが、学校の先生方はこれだけ大変な負担に喘いでいるときに、1人の保健師で、どれだけのことができるかということ、もう本当に、学校内のことも、家庭のこともあるでしょうし、いろんな社会の立場で、先生方生きてらっしゃるので、本当に一つ一つのケースに対しての、細やかなケー

スワークみたいなものも必要になります。

そうすると、保健師の役割、本当に大きいので、また今度、保健師が、その役割に負担感を感じて、つぶれてしまうというようなことも、雪崩現象が起こらないように、保健師をもっと増やすとか、何かそんな形で、よろしく願いしたということです。

○知念 覚 那覇市長

ありがとうございます。

那覇市自体の保健師の数は、今定数はかなりオーバーして作業しておりますので、今回は、配属はそういう形になってますけども、いわゆる数の確保において、全体では、しっかり対応しています。

あと中でのまわし方の問題ですから、ここは市長部局もしっかりタイアップできるかなと思いますのでよろしく願います。

すいません、長い間、時間ありがとうございました。

今日この一つ一つの項目について、結構突っ込んだ話ができかなと私自身は思っています。

今日のこの会議を参考にしながら、これからいろんな対応策を練っていきたいと思います。

何かご相談があるときは、こういう形式で、気軽に話し合う場を設けさせていただきたいと思いますので、ぜひ、今回大きな課題に取り組みますので、協力してやって参りましょう。

とりあえず今日はスムーズな会議運営、ご協力ありがとうございました。

これで一旦は閉じさせていただきます。

ありがとうございます。

○事務局

知念市長ありがとうございました。

本会議は以上となります。

改めましてスムーズな会議運営のご協力、大変ありがとうございました。

今回傍聴はいらっしやいせんので、このまま会議を閉めさせていただきたいと思います。

お疲れ様でございました。